

COPD(慢性閉塞性肺疾患)は別名「たばこ病」とも呼ばれ、原因の90%が喫煙と言われている。

COPDが進行すれば、息切れなど呼吸機能が低下し、全身の衰弱やほかの病気を合併するため、早期発見・早期治療が重要であり、何より、禁煙することが予防になる。

## <COPDの認知度>

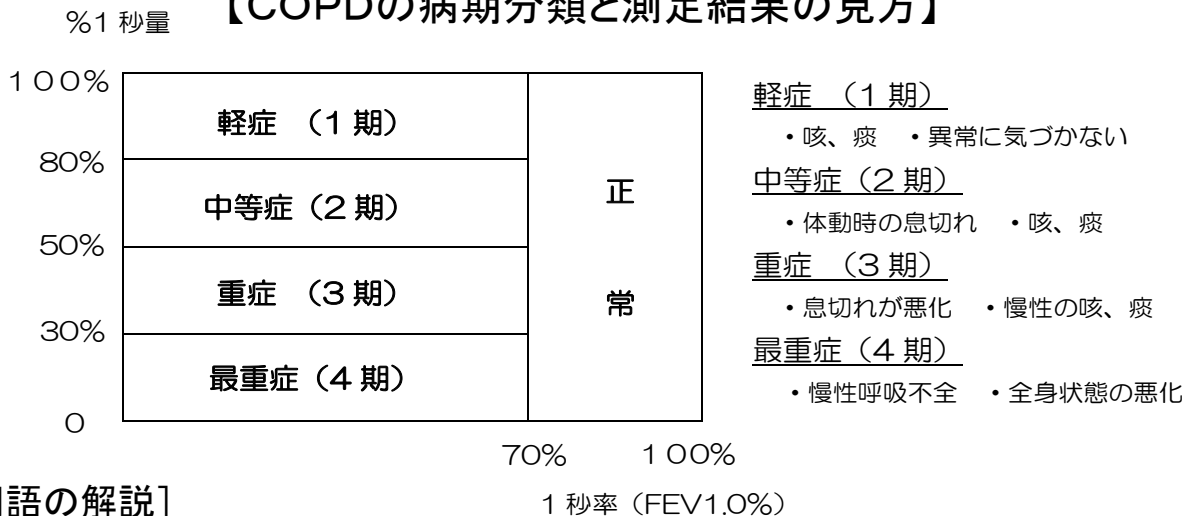
COPDの認知度は、目標80%に対し、奈良県の現状は「内容を知っている12.0%」「言葉のみ知っている31.7%」(平成28年度なら健康長寿基礎調査)であり、認知度の向上、ハイリスク者の早期発見、早期治療、禁煙支援に取り組んでいる。



### 【スパイロシフト】

専用の測定機器(スパイロシフト)で、呼吸機能を測定し、肺年齢やCOPDの重症度を知ることができる。

## 【COPDの病期分類と測定結果の見方】



### [用語の解説]

項目	単位	説明	
努力肺活量	FVC	L	息を最大限吸い込んだあとに一気に吐き出した空気量
1秒量	FEV1.0	L	努力肺活量のうち最初の1秒間に吐き出した空気量
1秒率	FEV1.0%	%	努力肺活量に対する1秒量の比率 (1秒量÷努力肺活量) ※閉塞性障害の目安
予測値			年齢、性別、身長、体重等から計算された予測の値
%予測値、%肺活量、%1秒量		%	予測値に対するそれぞれの測定値の比率

## 【COPD質問票】

COPDをはじめ、気管支喘息やアレルギー性鼻炎等の呼吸器疾患に関する国際的なガイドラインをもとに作成されたIPAG診断・治療ハンドブック日本語版に掲載されている質問票。

17ポイント以上	COPDの可能性が考えられます。スパイロ検査（気管支拡張薬吸入後の1秒率測定を含む）や身体診察などによってCOPDの診断を確定する必要があります。
16ポイント以下	COPDの可能性は低いと考えられます。ぜん息など別の診断を検討する必要があります。

### ■問診票の特徴

質問票に含まれる質問は、十分に検討された論文で診断的価値が最も高いとされているCOPDの症状および危険因子に関するものである。確定診断を得るためのものではないが、COPDの診断をさらに検討すべきか、それともその可能性は低いかを判断することができる。

## 1) COPD予防講演会

【郡山保健所 主催】参加者65名（うち、肺年齢測定者37名）

開催日：平成28年10月4日 場所：斑鳩町

【中和保健所 主催】参加者40名（うち、肺年齢測定者15名）

開催日：平成29年1月22日 場所：香芝市

内 容：①肺年齢測定（臨床検査技師により実施）

②COPD予防に関する講演会

講師 木村 弘 教授（奈良県立医科大学内科学第二講座）

○参加人数：105名

○肺年齢測定者数：52名（上記のうち、測定希望のあった者に対して実施）

## 2) 世界禁煙デー（普及啓発）において肺年齢測定を実施

【中和保健所 主催】

開催日：平成28年6月2日

場 所：道の駅「宇陀路大宇陀」阿騎野宿

内 容：禁煙の普及啓発と共に、肺年齢測定を実施（肺年齢測定者：15名）

## 3) 市町村事業における肺機能測定（肺年齢測定）及び禁煙指導（平群町、安堵町、上牧町、広陵町にて実施）

◆4町の既存事業（計16日）で、喫煙者を中心に肺機能測定を実施

◆242名がCOPD質問票記入及び肺機能を測定

	事業実施回数 （延べ日数）	質問票 及び 肺機能測定回数
平群町	5	59
安堵町	1	42
上牧町	1	16
広陵町	9	125
計	16	242

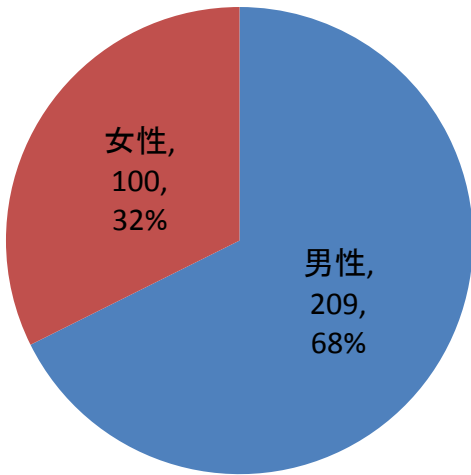
参考

【平成27年度実績】

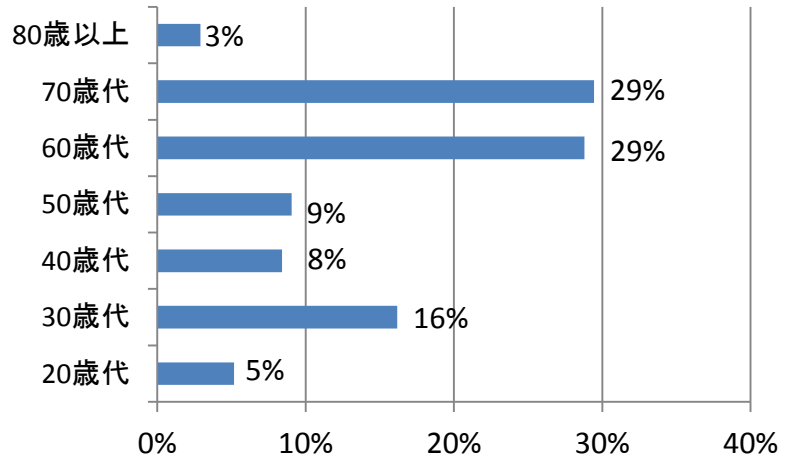
・3町（斑鳩町、上牧町、広陵町）において、計115名に対し、実施

# 質問票および肺年齢測定結果の概要(309名)について

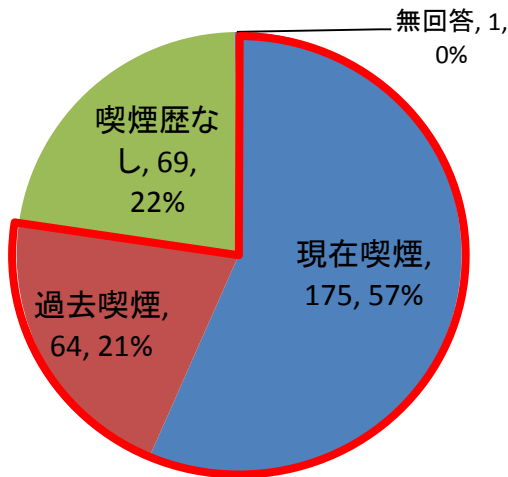
## 性別



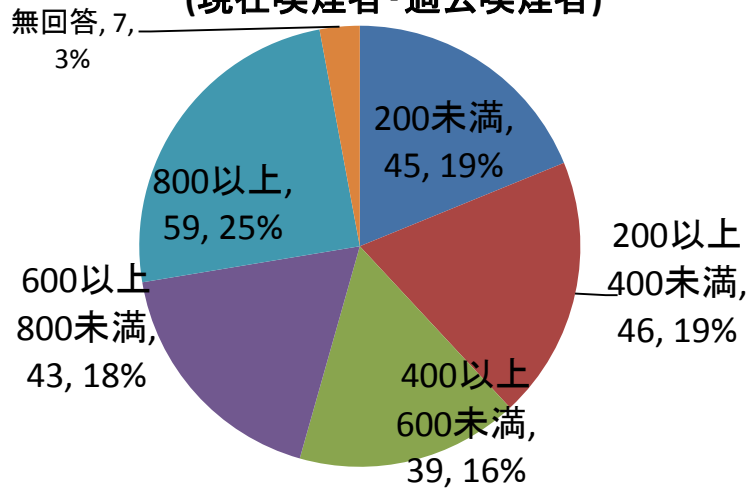
## 年齢



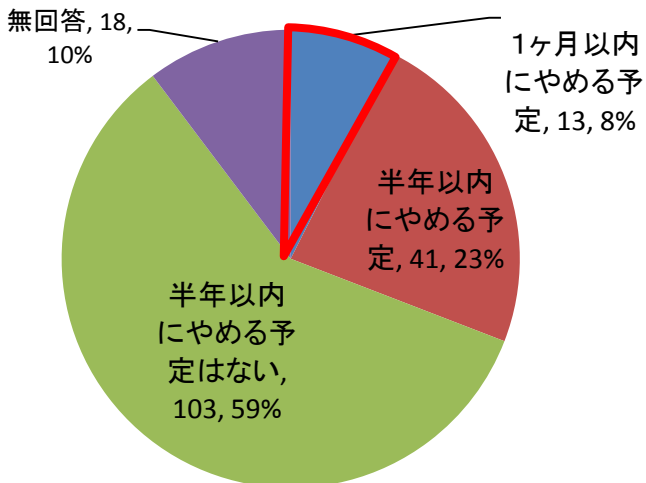
## 喫煙歴



## ブリンクマン指数(n=239) (現在喫煙者・過去喫煙者)



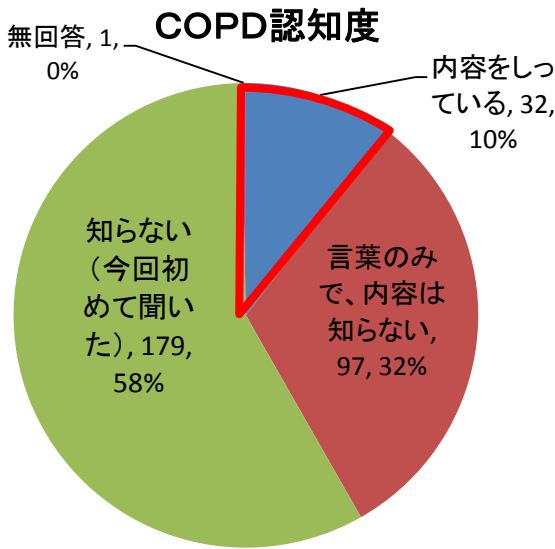
## 禁煙意向(現在喫煙者 n=175)



○対象者は男性が68%と多く、年代は60~70歳代で過半数を占めている。

○ブリンクマン指数は、200未満が19%、800以上は、全体の1/4を占めている。

○禁煙意向は、1ヵ月以内にやめる予定が8%、半年以内にやめる予定23%であり、約6割がたばこをやめたいと思っていない。



#### 【参考】COPDの認知度

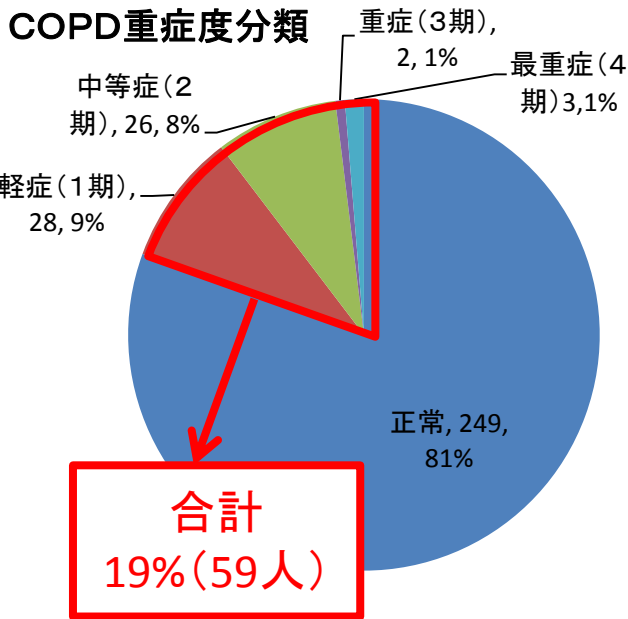
目標値: 80%

現状値: 内容を知っている12.0%

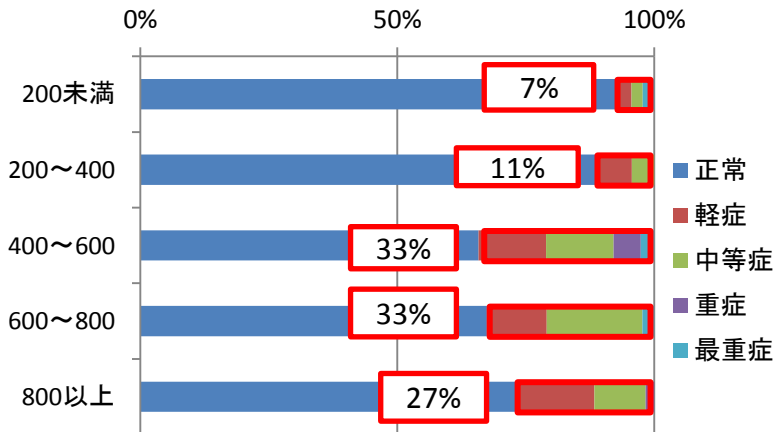
言葉のみ知っている31.7%

(平成28年度なら健康長寿基礎調査)

OCOPDの内容まで知っている人は10%、言葉のみ知っている人は32%であり、約6割が知らないと回答しており、認知度は低い。

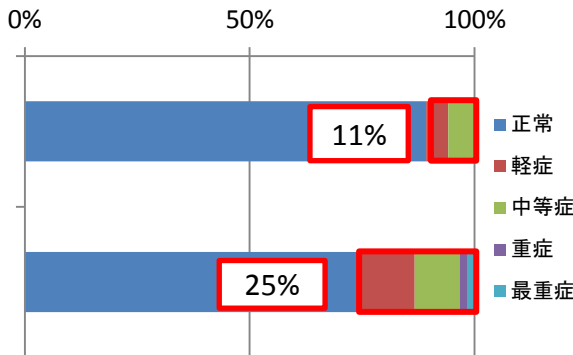


#### ブリンクマン指数と肺機能の関係 (n=232)



※現在喫煙者・過去喫煙者 (239名) のうち未回答の者 (7名) を除く

#### 質問票の得点と肺機能の関係



OCOPDの重症度分類は、軽症～最重症までの合計は19% (59人) と肺機能の低下している人がいる可能性がある。

○ブリンクマン指数が、400以上の人は、400未満の人と比べ、軽症以上の割合が高く、約3割を占めている。

○問診票得点、16点以下の人は11%に対し、17点以上の人は25%と割合が高い。